生徒会誌「みずほ」巻頭言　初代仮面ライダーの願い

校長　澤山陽一

先日、学校の廊下で、「記憶に残る仮面ライダーを教えてください。」と通りすがりの生徒にインタビューする不思議な男に遭遇した人はいませんか。それは、決して不審者などではなく、この私でした。校長のいきなりの質問に驚きながらも、「仮面ライダー電王や仮面ライダーキバをよく見ていました。」と答えてくれてありがとうございました。

「仮面ライダー電王」は、佐藤健さんがライダー役で、バイクではなく電車に乗って戦いに現れる意外さがうけて、劇場版も制作されるくらい大人気となったシリーズでした。一方、「仮面ライダーキバ」は、親子二代の仮面ライダーが登場し、主人公が生きる現代と父親の生きる過去のストーリーが同時進行する仕掛けになっていて、親子の絆がテーマでした。

今年は、仮面ライダーのテレビ放映がスタートして５０年になるそうです。私が１０歳の頃に放送が始まった計算になりますが、当時の私は、いつも野山で植物探しばかりしていましたので、漫画やテレビにはあまり興味がありませんでした。そんな私でも、主人公が仮面ライダーに変身する際の「へーんしん！」やジャンプする際の「トォッ！」という声の響きは耳に残っていますから、当時の仮面ライダーの人気ぶりが想像されます。また、友達の中には「仮面ライダースナック」というお菓子についている仮面ライダーのカードを熱心に集めている子もいました。当時、カードだけを取ってお菓子を捨ててしまう事例が多発し、「ライダースナック投棄事件」として社会問題にまで発展して、学校で先生から注意があったことを覚えています。

初代仮面ライダーの主人公を演じたのは、最近、美男美女の子ども４人の父親としても注目されている「藤岡弘」さんです。藤岡さんが、愛媛県久万高原町出身ということは知っていましたか。藤岡さんは、仮面ライダー放映３０年記念に合わせたインタビューで、２１世紀のヒーロー像を「ただ裁くだけでは駄目。目覚めさせ、大きな愛で包み込む。最後は抱きしめて許す。」と語っていらっしゃいました。つまり、現代をよりよく生きていくためには、相手を批判・否定し、罰するのではなく、温かく包み込む「寛容」な気持ちが必要だと、藤岡さんはおっしゃっているのだと思います。

コロナ禍の中で、「自粛警察」とか「マスク警察」という言葉も生まれたように、今の社会は、相手の事情を想像することなく、許さないという「不寛容」が溢れているような気がします。そして、そのことで人間関係がギクシャクしてしまうことが多いようにも感じます。一人ひとりが相手を尊重し、「人にはいろいろ事情があるのだから、多少のことは大目にみよう。」という気持ちを少しでも持てれば、自分の気持ちも落ち着き、人間関係もうまくいくのではないかと私は思っています。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時が来ました。故郷の先輩である藤岡さんの「寛容」の言葉を胸に秘め、仮面ライダーの「トォッ！」の掛け声とともも

に、勢いよく社会に飛び出していってください。そしてたまには、校長である私が機会あるごとに皆さんに伝えていた「自分の命は自分で守る」、「笑顔と感謝」、「人の話をしっかり聞く」というメッセージを思い出していただけたら、こんなうれしいことはありません。